

3)ひまわりの栽培法について

(1)ひまわりの標準栽培法

中央農業試験場 畑作部畑作第二科 農水省北農試 作物第二部特用作物研究室
中央農業試験場 病虫部病理科 農水省北農試 農芸化学部泥炭地研究室

1.試験のねらい

ひまわりは世界的にみると、寒冷地において大豆につぐ重要な油料作物である。北海道では、昭和56年ごろより、空知管内北部を中心に栽培が定着して、その作付面積は昭和61年には約150haまでになり、栽培指針が求められるようになった。このため、これまで道内試験機関等で実施してきた試験成績をとりまとめ、栽培技術の確立に役立てる。

2.試験の方法

基本的な栽培法を確立するため、次の項目の試験を行った。1)品種特性 2)播種期 3)栽植本数 4)養分吸収特性と施肥 5)収穫、乾燥、脱穀 6)搾油および剥皮 7)菌核病防除 また、子実重は平年時10a当り250kg程度を目標とした。

3.試験の結果

1)油料用品種では、早生の「IS907E」と中生の「IS897」の子実重が安定、多収であった。中生の「IS897」を5月上旬に播種すると、9月10日頃に成熟期になる。

2)播種期では、5月上旬から中旬に播種すると子実重、収油量が良かった。

3)栽植本数は、油料用では5,000～7,000本、食品用では4,000～5,000本の子実重が良く、畦幅はいずれも70cmの子実重が良かった。

4)養分吸収特性と施肥 油料用について検討した結果、転換畑を含む一般畑土壌の施肥量はN:6、P₂O₅:10、K₂O:10(kg/10a)が適当であった。

5)収穫、乾燥、脱穀 収穫期は花托が鈍い黄色を呈した時期がよく、脱穀に適当な水分は、子実が約30%、花托が75%以下であった。

6)搾油および剥皮 油料用の搾油には圧搾法と抽出法があり、油の歩留は約30～35%である。食品用の剥皮による製品(核収量)の歩留は約32%である。

7)菌核病防除 薬剤散布は開花揃から開花終りまでに、頭花前面に集申して3～5回散布すると効果的である。

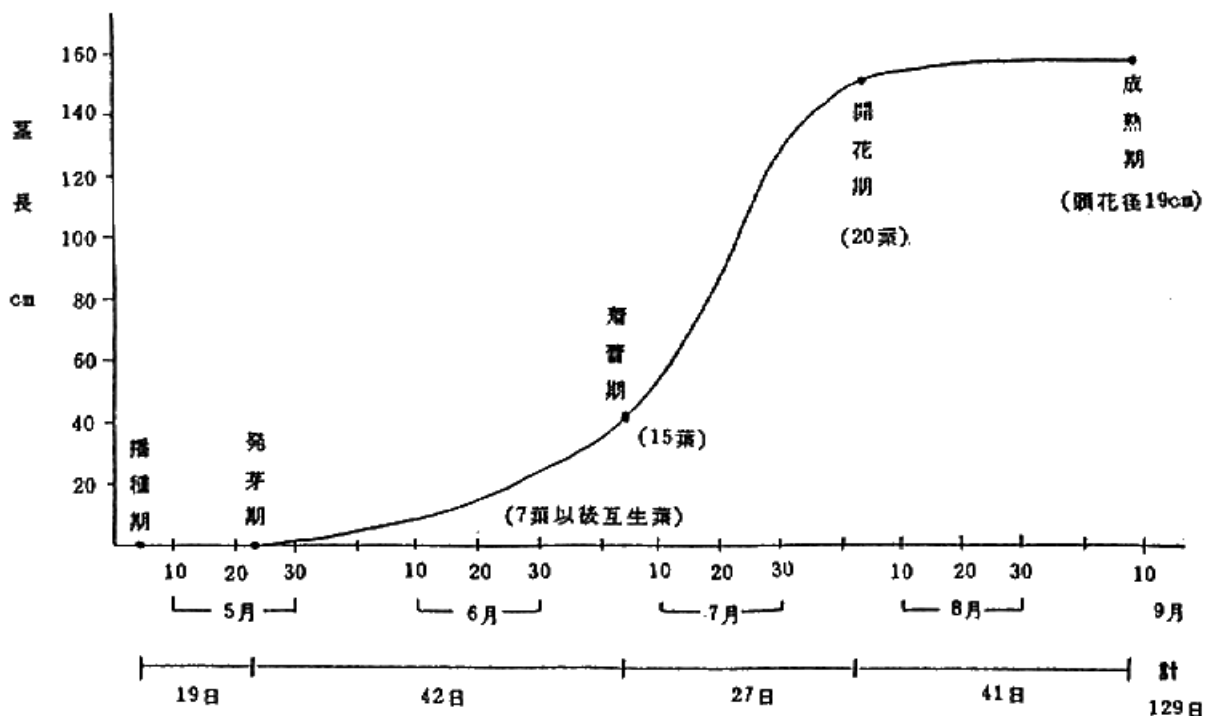


図1 ひまわりの生育経過

注)品種「IS897」・道立中央農試(昭和58～61年平均)

播種期 5月4日.栽植本数 4,995本/10a(畦幅70cm)

施肥量(kg/10a) N:6.0,P₂O₅:9.8,K₂O:7.7

表1 品種特性調査(昭和58年～61年の平均)

用途	項目 /品種名	開花期 月日			成熟期 月日			子実重 kg/10a		
		中央 農試	北 農試	ホクレン 農総研	中央 農試	北 農試	ホクレン 農総研	中央 農試	北 農試	ホクレン 農総研
油 料 用	1.IS 897	8.1	8.8	8.6	9.8	9.9	9.11	100 (236)	100 (225)	100 (188)
	2.IS 7000	7.25	8.1	—	9.1	9.4	—	92	80	—
	3.IS 907E	7.26	8.2	7.28	9.3	9.4	9.3	113	102	101
	4.IS7775S	7.31	8.5	8.4	9.9	9.8	9.11	99	88	75
	5.SB 254	8.2	8.9	8.8	9.8	9.10	9.9	89	90	111

注)ホクレン農総研は昭和57～60年の平均。()は実数

表2 播種期別の生育と子実重

品種名	播種期	開花期 月日	成熟期 月日	子実重		油分 %
				kg/10a	比	
IS907E 早生	5月上旬	7.29	9.5	317	100	46.1
	中旬	8.8	9.13	291	92	45.0
	下旬	8.11	9.15	267	84	41.1
IS897 中生	5月上旬	8.3	9.10	236	100	45.0
	中旬	8.11	9.16	248	105	44.8
	下旬	8.14	9.21	211	89	42.5
	6月上旬	8.19	9.28	178	75	45.5
IS3107 晩生	5月上旬	8.10	9.16	202	100	45.7
	中旬	8.13	9.20	201	100	45.1
	下旬	8.18	9.25	172	85	45.5

注)昭和58年～61年中央農、北農試、ホクレン農総研の平均

表3 栽植本数別の子実重(IS897)

栽植本数 (本/10a)	中央農試		北農試	
	kg/10a	比	kg/10a	比
3000	173	76	247	87
5000	228	100	283	100
7000	248	109	286	101

注)畦幅は70cm 中央農試 昭和58～60年の平均
北農試 昭和59年

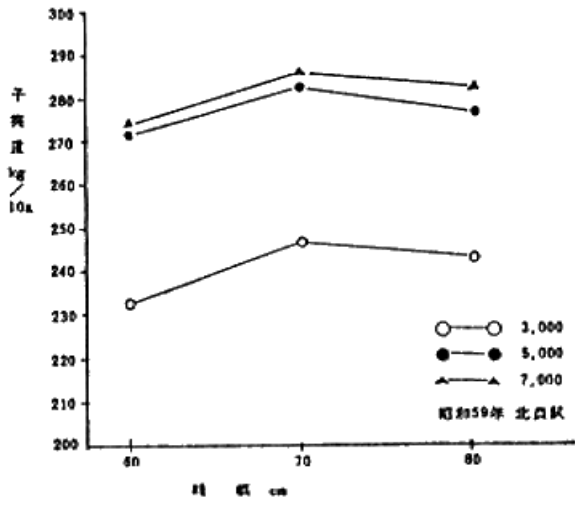


図2 畦幅が子実重におよぼす影響(油料用 IS897)

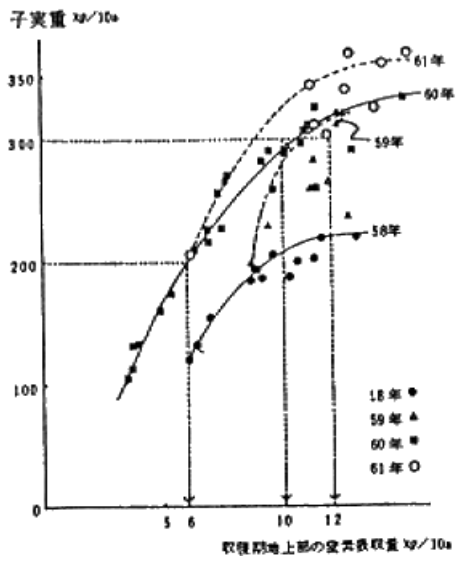


図3 ひまわりの窒素吸収量と子実重の関係(北農試)